

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

目指す学校像	世界で活躍するアーティストを輩出するアカデミー
--------	-------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科における学力の向上 2 社会性と自立心の向上 3 進路希望の実現 4 開かれた学校づくりの推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	6名

年度目標		学 校 自 己 評 価		年度評価 (2月29日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 全県から目的意識を持った生徒たちが本校に通っている。技量・学力の向上を目指して熱心に活動しているが、県内唯一の「校名に芸術を冠した学校」として更なる高みを目指させたい。 ■課題 目指す学校像を達成するため専門分野でワンランク上を目指すとともに、共通教科の学習との両立を図る必要があり、重点的に取り組んでいきたい。	1 専門性の更なる向上に向けた教育活動の推進	①【美術】戦略的取組(外部機関との連携)の実践【音楽】実技試験、ソルフェージュ等の結果分析に基づく技能・知識の到達度チェック【映像】作品完成後の最終講評のみならず中間講評、相互評価、講師からの個別評価の実施【舞台】カリキュラムの更なる見直し ②学校行事、年次集会や年次レクリエーションなどにおける学科間交流	①「学校生活満足度調査」における生徒の自主的な学習への取組に関する調査が、前年度比較で向上したか。 ①実技試験、年5回の専門科目の考查から知識理解、基礎力の定着、技術の向上がみられたか。 ②生徒が積極的な学科活動を行い、他学科の活動への関心を持っているか。	■各学科における専門教科・科目及び特別活動・課外活動により専門性の向上が実現 ①②「学校生活満足度調査」における専門教科への生徒の意欲的な取組を示す回答が97%(前年度94%)に上った。 ①実技試験の事前指導や作品の講評等の評価活動をきめ細かく実施した結果、知識理解、基礎力の定着、技術の向上が認められた。 ②HR委員を機能させ、生徒主体の年次レクを実施したことで生徒間の連帯感が生まれるとともに、他学科の発表を鑑賞し合う雰囲気が醸成された。	A	■次年度への課題 ・【美術】学科の取組に尽力できなかった生徒や結果が伴わない生徒への対応が必要である。 ・【音楽】担任、教科担当及び講師の先生方との連携を深め、指導に生かすことが必要である。 ・【映像】CG室の機器の更新に向けて準備を進める必要がある。【舞台】カリキュラムについての成果と課題を探り、更なる改善を検討する必要がある。 ・専門教科と共通教科の学習バランスを保ち、学習姿勢の定着と学力の向上を図るための方策を検討する必要がある。
		2 共通科目における学習姿勢の定着と学力の向上	①各年次2回(3年次は1回)スタディーサポートの実施とフィードバックシステムの導入 ②個別シートの活用と「振り返り」の実施 ③英国数等の主要科目の補習を実施	①②クラス・学科の実情に応じたスタディーサポートのデータ等の活用方法が確立され、個別シート及びLHRを利用した「振り返り」で生徒が自らの課題を認識できたか。 ③実力テストや定期考査の結果が向上したか。	■年次、共通教科と進路指導部の連携により学習姿勢の定着及び学力の向上が実現 ①スタディーサポートを年2回(5月・8月)実施し、教員研修会を2回開催するとともに、フィードバックシステムも10台分のライセンスを購入した。 ②個別シートの課題や「振り返り」は担任、教科や進路指導部内で活用され、学習の見通しを立てるのに役立った。 ③定期考査や実力テストの結果から主に補習・補講等参加者の進歩・意識の向上が認められた。	A	■改善策 ・単位制専門高校としてのメリットを生かし、「個」を重視したきめ細かい指導を展開する。 ・日頃の授業を充実させるとともに、限られた時間を有効活用し、学習時間や機会が確保できるよう工夫する。 ・修学旅行などの学校行事を通じて、更なる専門性の向上と生徒間の相互理解及び学び合いを行う。
2	■現状 創立以来のノーチャイム制の伝統により静かな教育環境を保っている。みだしなみや挨拶などでも概ねよくできている。 ■課題 一部に課題のある生徒もおり、健全な表現者となるべく、ワンランク上の意識を持つ必要がある。生徒の実態の多様化が見られる。自立した表現者の育成を目指し、本校の目指す学校像を踏まえた上で、必要な生徒に対して適切な支援を推進する。	1 生徒の自己管理能力の向上	①引き続き、定期考査期間以外はノーチャイム制で時間管理の指導を実施 ②通学指導、バス乗車指導を定期的に実施 ③年次集会でみだしなみ指導を継続的に実施	①②③「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーを守った主体的な学校生活に関する調査項目で、8割以上の肯定回答が得られたか。 ①②無断欠席や遅刻回数が増えているか。	■ノーチャイム制での行動や基本的な生活習慣は概ね確立し、主体的な学校生活が実現 ①②③「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する肯定回答は77%(前年度76%)であり、主体的な学校生活に関する肯定回答は91%(前年度91%)に上った。 ①②無断欠席、遅刻回数とも低水準を維持しているが、遅刻回数については2年連続で減少した。	A	■次年度への課題 ・生徒との信頼関係を築きながら、より柔軟な姿勢を持って、3年間を見通した指導を展開する必要がある。 ・専門分野における学びを生徒の自己管理能力の向上へと結び付けていく必要がある。 ・専門教科の授業課題の提出や発表の時期のスケジュールを調整し、過度な精神的な疲労や負担感に配慮する必要がある。
		2 適切な生徒支援の推進	①生徒向け「相談ポスト」の新規設置と教育相談委員会と各年次、学科が連携した必要情報の的確な把握 ②外部機関及びスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒一人一人のニーズに合った支援を展開	①②生徒の悩みや相談に適切に対応し、「個」に応じた支援ができたか。 ①②「学校生活満足度調査」による学校生活の満足度(充実度)が向上したか。	■担任及び年次、学科等が新規設置した教育相談委員会と連携しながら学習面や生活面等の適切な生徒支援を実現 ①②生徒一人一人の悩みや相談に細やかに対応するために情報交換会や支援会議(計16回実施)を実施するとともに、生徒のニーズに合ったカウンセリング等の支援を展開した。 ①②「学校生活満足度調査」における学校生活の満足度(充実度)は89%(前年度85%)に上った。	A	■改善策 ・更にワンランク上の意識を持たせるために、学科・分掌・年次・教科との協力体制を固める。 ・バス乗車などの登下校時のマナーを更に向上させるため、引き続きバス乗車指導や声掛けを行う。 ・保護者との連携を密にして、より適切に支援を必要とする生徒に対応する。
3	■現状 東京芸術大学など国立大学や国際基督教大学など、70%を越える生徒が現役で大学・短大へ進学している。 ■課題 生徒全員に対して進学への意識を早い段階から醸成し、本格的な準備を始めるように促す必要がある。	1 進路実績の向上	①コンパス、ハイスクールオンラインなどの進路支援システムを活用した進路支援 ②進学補講が必要な生徒を把握するとともに、各年次と共通教科担当が連携して進学補講を実施 ③生徒一人一人の進路希望に合わせた学習プランを立案	①②③生徒一人一人が希望どおりの進路実現が果たせ、進路実績が向上したか。 ②【2年次】修学旅行明けから12月中までに、概ね生徒が自分の進路希望を固め、受験のための勉強や補講、専門科目の対策に取り組む体制が整えられたか。	■進路指導に係る様々なツールの導入と職員研修会の効果の実施などにより、概ね希望どおりの進路を実現 ①②③3年次担任全員がハイスクールオンラインに登録するとともに、コンパスによる志望校選びでは「チャレンジ・実力相応・安全」の3段階の指導等で一人一人が概ね希望どおりの進路を実現した。 ②各年次と共通教科担当との連携による進学補講の実施と第1志望届の提出(2年次)などにより、受験のための勉強や授業に対する取組に積極性が見られるようになった。	B	■次年度への課題 ・進路指導に係る様々なツールを更に有効活用するための方策を検討する必要がある。 ・生徒の多様な進路希望を実現するための適切な支援策を検討する必要がある。 ・進路意識を向上させるために様々な方策を展開しているが、一人一人の進路希望実現に向けて更に生徒間の進路意識の差を埋め、意識を向上させる必要がある。
		2 進路に向けた意識の向上	①進路指導部、教務部、各年次や学科が連携した各種進路ガイダンスの実施 ②【美術】外部機関と連携した夏期・冬期講習や進路講演会の実施【音楽】「大学で学ぶ」意味、「音楽を職業とする」ことの厳しさを指導【映像】授業を活用した進路啓発【舞台】卒業生懇談会、分野別進路説明会の内容の工夫・改善	①②「学校生活満足度調査」における、進路指導に関する結果が向上したか。 ①②各種進路行事の生徒アンケートの結果において生徒の進路意識の向上が見られたか。	■各種進路ガイダンスの実施や様々なツールの活用等により進路意識の向上が実現 ①②「学校生活満足度調査」における、進路指導に関する調査項目の肯定回答が90%(前年度85%)に上った。 ①②各種進路ガイダンスや各学科を主体とする分野別進路説明会等の実施後の生徒の反応は良く、進路意識の向上が認められた。	A	■改善策 ・スタディーサポートの取組を教科指導と連携して進めるとともに、進路支援システムを活用した具体的な進路支援策を講じる。 ・進路希望の多様性への対応に向け、職員研修会を開催するとともに、進路情報を共有する。 ・進路希望実現に向けた科目選択指導を適切に行うとともに、3年間を見通したより実効性のあるガイダンスや進路行事を展開する。
4	■現状 ホームページなどを活用して迅速な広報活動を展開するとともに、中学校や塾を訪問し本校の特長などを伝えている。 ■課題 本校の教育活動の素晴らしい実践や学校全体の活気ある雰囲気、更には生徒の意識の高さが伝わる新たな広報活動の展開を検討することが求められている。	全学科での志願者増又は志願者数維持	①教務部内に「生徒募集企画戦略担当」を新設し、生徒の母校訪問、教員の中学校訪問、学校説明会、学校だよりの発行など創意工夫した広報活動を展開 ②ホームページを一部リニューアルするとともに、学校の雰囲気が伝わる魅力的な情報を随時発信 ③正門掲示板を広報ツールとして活用 ④【美術】講習会の定員廃止と体験入学の内容のブラッシュアップ【音楽】ホームページの更新頻度を向上【映像】学校説明会及び体験入学の内容のブラッシュアップ【舞台】体験入学と実技検査レッスンをつなぐ実技基礎レッスンを新設	①②③④本校の魅力や特色が中学生やその保護者、中学校などに伝わり、学校説明会等でのアンケート結果で肯定的な回答が8割以上となったか。 ②ホームページ全体の更新数が前年度と比較して増加し、内容が充実したか。 ①②③④本校の志願者数(倍率)が増加したか(現状維持できたか)。	■学校全体で積極的な広報活動を展開し、志願者数の増加(維持)を実現 ①②③④学校説明会の参加者数は、11月実施126名(前年度89名)、1月実施81名(前年度59名)であった。 ①②③④学校説明会実施後のアンケートにおいて、本校への関心の高さを示す回答が91%に上った。更に各学科の体験入学等や学科説明会のアンケートについても、概ね80%以上の参加者が学校や学科に好印象を持っていた。 ②ホームページ全体の更新数は2月5日現在で129回(前年度50回)と大幅に増加するとともに、画像を効果的に活用するなど内容も充実した。 ①②③④本校志願者数については、10月調査1.36倍(前年度1.27倍)、12月調査1.09倍(前年度1.11倍)、志願確定時1.13倍(前年度1.09倍)であった。	A	■次年度への課題 ・教務部内の「生徒募集企画戦略担当」を中心に、生徒募集に関連する学校内外の環境分析及び今年度の取組の効果検証を行う必要がある。 ・本校の魅力により多くの中学生やその保護者等に発信するためのシステムづくりを検討する必要がある。 ・ホームページでの広報活動を更に充実させる必要がある。 ■改善策 ・学校説明会や各学科の体験入学に参加した中学生やその保護者の意識やニーズを的確に把握するためのアンケートを実施する。 ・教務部と各学科の強固な連携の下、組織的な生徒募集活動を展開するとともに、芸術全体のブランディングを強化するための方策を実行する。

学校関係者評価
実施日 平成28年3月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・校外における作品展や各種コンクール等での他校との交流や、大学をはじめとする外部機関との連携は、改めて自分の作品制作について見つめ直すきっかけにもなり、芸術の専門性向上に大いに役立っていることが実感できる。 ・共通教科の学力向上を目指すには、隙間時間の活用の工夫など限られた時間の中で、いかに効率よく集中して学習するかがポイントである。 ・生徒自身が学校行事の年間計画や予定と併せて、各学科の作品制作予定や課題の提出期限等を把握し、先を見通したスケジュールリングができるとよい。
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・バス乗車指導やバス利用者の声によって芸総生の意識が変わり、最近ではバスの車内が混雑していても、優先席が空いていることが多い。芸総生のバスの乗車マナーは向上している。 ・一流のアーティストはマナーも一流である。芸総生は一流のマナーを身に付けられるよう頑張っして欲しい。 ・展覧会に行った時の印象では、芸総生は他の高校の生徒よりも制服を清楚に品良く着ていると感じた。
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度B及び2に対する達成度Aは妥当である。 ・芸総生は進路のことを真剣に考えており、進学先だけではなく、将来の職業まで考えていることが分かる。 ・PTAでは、保護者対象の大学見学会を実施している。生徒も大学等へ積極的な足を運ぶ機会が設けられるとよいと思う。 ・進路希望が早い段階で固まれば、実現に向けて高い意識を持ちながら学校生活を送ることができる。大学の授業内容、通学距離、大学卒業後の進路、学費等、進学に係る情報を様々な機会を利用して早めに把握し、生徒自らが適切に志望校を決定できるとよい。
■評価項目(年度達成目標)に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・芸術文化に興味を持っていて中学生はたくさんいると思う。更に埼玉県全体に芸総の魅力をPRできるとよい。 ・学校のことを知ってもらうには、やはり授業見学が良いと思う。学校行事を見ていただくことも必要だが、通常の学校生活が見られる機会も設けられるとよい。